

県外派遣審判員報告書

作成日 年 月 日

大会名	第16回九州ジュニアオールスターバスケットボール交歓大会	会場	大津町総合体育館
期間	3月17日(土)～3月18日(日)	報告者	中村 健太(中体連)
スケジュール			
期日	内容		場所
3月17日(土)	9:30～	大会1日目	大津町総合体育館
3月18日(日)	9:00～	大会2日目	大津町総合体育館
実技	割り当て	女子Cパート第1試合【沖縄選抜 vs 熊本選抜B】	副審 相手 大山(鹿児島県)C級

○ゲーム前(プレカンファレンス)

プライマリ・セカンダリエリアの確認とクロック管理などの責任について確認した。アウトオブバウンズの見えづらい時のヘルプの確認もした。両チームとも初めて見るチームなので、早めにコートに入りアップを見ながらキーになりそうな選手の打ち合わせをした。

○ゲームの実際

ゲームの雰囲気から飲まれてしまい、緊張からか影響をじっくり見極めずにハンドチェックでファールコールをしてしまった。試合を終えて振り返ってみると両チームともに1試合目であることから足も動き、基準に適應するだけの能力のある選手だったので、早めに基準を示せたのはよかったと思う。ゲームを通して、同じ基準で判定できたわけではないので、お互いにタイムアウトやピリオド間に打ち合わせをした。大山氏に助けをもらうことが多かった。ファールを伝達するときに、ジェスチャーや番号の言い間違えにより、オフィシャルにはっきり伝わらずゲームの進行を止めてしまうことがあった。ハーフタイムにオフィシャルとコミュニケーションをとり、確認をすることで後半はスムーズに進行させることができた。

○ゲーム後(ポストカンファレンス) 森山氏(鹿児島県)B級

アングルの取り方とプレーを予測しながら見やすい場所を取る必要がある。2POメカの確認とガイドラインを確認してお互いに連携をして、悪いプレーをしっかりと見ていくようにしていかなければいけないと助言をいただいた。クルーが共通して判定できるように研鑽を積むようにアドバイスをいただいた。

実技	割り当て	2位リーグ第3試合【大分選抜 vs 福岡選抜】	副審	相手	末信(福岡県)B級
----	------	-------------------------	----	----	-----------

○ゲーム前(プレカンファレンス)

両チームの試合を見て、ディフェンス時にイリーガルな手の使い方が多いことを確認した。また、情報を出し合い、ハーフライン付近でのディフェンス、ポストプレーがキーになることを確認した。2POでのメカニクスの確認、3・4番エリア、1・6番付近の責任の確認、プライマリ・セカンダリエリアの確認をした。アウトオブバウンズの見えづらい時のヘルプの確認もした。オフィシャルを担当する生徒が2～3試合目になるので、コミュニケーションを取りながら、クロックの管理やスコアラーへの伝達をはっきりして確実にを行うことを確認した。

○ゲームの実際

ゲーム序盤で末信氏がハンドチェックの基準を示してくれた。見逃さないようにファールを取り上げた。ベンチから「手を使うな」と指示が出始めたので、早い段階で基準をはっきり示すことができた。しかし、選手が定期的に変わるゲームなので、同じようなケースで取り上げることが多くなった。前半の終了間際にリードからトレイルが変わるときハーフライン付近での攻防でのカットボールから遠い位置からアンスポーツマンライクファールを宣した。末信氏がリードに走り出している確認できていなかったとのことだったがファールをした選手を間違えてコールし、ベンチからのアピールにより、お互いで確認して訂正した。ゲームを通して、タイムアウトやピリオド間に打ち合わせをして現象の確認をしたので、ぶれずに判定を行うことができた。

○ゲーム後(ポストカンファレンス) 吉松氏(福岡県)B級

ゲームを通して、手の使い方に気を配っているのは見られたが、チープなファールもあった。ドライブインやポストプレイ、リバウンド後の後ろからのイリーガルな手の使い方などバランスを崩してプレーしているのはなぜかを意識しながら判定をすればいいと現象を振り返りながら指導していただいた。リードとトレイルが連携をして、アングルを確保しながら確認していかなければいけないことをメカの確認と役割分担を確認しながら助言をしていただいた。選手たちにとっては全国へ向けてのアピールの最後のチャンスのものであること、2日間の疲労があるので足が動きにくくなっていること、限られた時間で結果を出さなければと意気込んでいることなど選手の気持ちや大会ごとの試合の位置づけを考えると判定も安定してくるとアドバイスをいただいた。

全体を通しての感想

初めての県外派遣で他県の審判員の方のプレカンやポストカンファレンスも観察することができた。ガイドラインや現象の確認をコンピュータを活用しながら映像を用いている姿に刺激を受けました。多くの上級審判員の判定を見ることで自分の判定を振り返り、研修することもできました。最後に、このような機会を与えて下さった兼審判委員会や、運営等さまざまな場面でお世話をして下さった熊本県審判部の方々に感謝申し上げ、第16回九州ジュニアオールスターバスケットボール交歓大会の報告といたします。